

「仏教に関する実態把握調査」

（二〇二〇年度）臨時調査③

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

「直葬への印象と今後の」

葬儀意向

東京二〇二〇オリンピックも終わり、史上最多の五八個の金銀銅メダルを日本人選手たちが獲得しました。一年延期で開催された大会ではありましたが、コロナウイルスの感染拡大は収まっておらず、殆どの競技は無観客で行われ、テレビを通して選手たちの活躍を応援された方が沢山いらっしゃったのではないのでしょうか。

さて「新型コロナウイルス感染症が仏教寺院に与える影響」として「仏教に関する実態把握調査（二〇二〇年度 臨時調査）報告書」について前々号から三回にわたりにご紹介してきましたが、今回が最終回となります。（報告書は全仏のホームページにも掲載されております）

●直葬の実施有無と意識

直葬とは、故人が亡くなった際に葬儀を行わず、病院や自宅から直接火葬場にご遺体を搬送し、荼毘に付す事を言いますが、菩提寺の有る無しに関わらず、直葬をしたことがある方は七・四％おりました。また菩提寺が有る方でも直葬を行った方が八・二％おられました。「今の時代直葬でも仕方

がないと思う」と回答された方は七〇・二％いる一方、「本音を言えば直葬は嫌だ」と回答した人も四七・八％おりました。時代の流れで「直葬」は仕方がない事と理解する一方で、本音としては「直葬」は嫌だと思いう方が半数近くおり、まだまだ葬送儀礼において従来通り希望される方がいる事に安心致しました。

●直葬に対するイメージ

費用が安く済む（四三％）と回答した人が最も多く、次いで家族親族に迷惑をかけるてすむ（三五・一％）でした。一方で、味気がないと思う（三一・一％）、しつかりお葬式は出してあげたいので抵抗がある（二六・一％）という方もおり、きちんとしたお葬儀をしてあげたいという思いがありつつも、費用が安く済むといった印象を持っている方が4割ほどいる事が分かります。

●コロナ禍を経ての今後の葬儀意向

コロナ禍を受け家族だけの葬儀にする（三八・四％）、親族だけの葬儀にする（二九・一％）、コロナ禍に関わらず葬儀はきちんと行う（一三・七％）となっており、合計すると八一・二％の方が葬儀を行うと回答しております。また直葬にすると回答した方は一三％おり、菩提寺が無い方の比率が高

くなっております。

「コロナ禍において」

寺院・僧侶に期待する」と」

●今後、寺院・僧侶に求める役割コロナ禍において寺院・僧侶はどのような役割を担うべきか、に対する回答として、不安な人たちに寄り添う（三二・一％）、コロナ禍の収束を祈る（二一・九％）、しつかりお葬式を執り行うことを心掛ける（二一・九％）、悩み相談などの傾聴を行う（一七・五％）、生活に困っている方たちの支援を行う（一七・一％）、コロナ禍でもお寺を開放して受け入れる（一〇・七％）、加持祈祷を行う（九・一％）となっております。いくつかの項目で既に取り組みをされているご寺院がある事は承知しておりますが、この結果を踏まえますと、まだまだご寺院での取り組みが認知されていない事を物語っております。また大変残念ながら、一番回答数が多かったのが、特に担うべき役割は無い（三五・三％）でした。一朝一夕ではこの数値は変わりませんが、コロナ禍が収束する近い将来、ご寺院での取り組みが広く認識される事を願っております。

出典「仏教に関する実態把握調査（二〇二〇年度）臨時調査」（公財）全日本仏教会、大和証券（株）